

謹啓

之女こ生ま病まあのあめ

暫しばくは丹ま沙さ冷れけうは

佑た愛い岡おか下したには日ひくは

楽ら劇げきあらはるもも縁ゆかりはず

愈いはな雄ゆう海かいみこいせ

あらうし邦はう家かののあめ

慶けい賀がしし玉たまああああ

ああくくははああふふああああの

ああくく正せい正せいととああああ何なに

辛しん一いつ正せい正せいににああの

目めああああああああああああああ

口くち海かいああああああああああ

〇ああ今いまのの反はん表ひょう達たつのの別べつ

用よう一いつああああああああああああ

所しよ一いつああああああああああああ



用して攻勢の材料と
所 居るは乃亦問題
大浦官談のあま 閣下
とつては(建)成なる事と
あつては而して此の間
題の裏面には餘り輕
視するべからざる事 情
あるは則ちある反對派の
例を挙げこのみあるは閣
下に回憶ある例の表面
に於ても内部には種規
一 體さるる情 況み居
るは女十九日は注意
とあるは) 好まると
とあるは

○米價相場は米の需
政府が実行しつて貯
蓄せしむる米の必要分
法に実行しは及ばざる

書からとりだすの茶の味が
清く爽やかに及ぶ
茶の種は昔の所産を
自らの茶とすべし
日米と海運の便に
種類ある人の味を
よく試すの女は油を
とらぬ
山——茶の味は閣下の
茶をよむ色も名も
本中一歩の上品は
考へぬ
○目下お茶の味は
味変り同様に
落ちることも
可憐なること
中福口は茶の
有る共内お茶の
ためは
底せる針と
とぬ

底せの可針と云ふ
と云ふ事と云ふ事
場

○又陸軍大臣の可刺から
世海も田舎治と問題の
ついでには是れを云ふ
案と云ふ識念の可提
出に程々も云ふ事
皇族院に於ては政府案
として提出せらるる事
希望の人々も云ふ事
へれを政府案として出
さるる事は所謂推し遣
しに終る事と云ふ事
会ありし事と云ふ事
は皇族院も云ふ事

○又上野の園地も
海は口海と云ふ事
皇族院も云ふ事

静寂の人の心
へたき貯庫
さゝのまは
— 後のまへ
会ありし
— 静寂の人の心
へたき貯庫
さゝのまは
— 後のまへ
会ありし

〇空のまへ
海は
島は
とまのまへ

た

大
十
押川可哉

石野大隈重信閣下